

学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 実践記録

研究主題

「ともに学び合う授業の創造」
～学習基盤となる「読む力」の育成をめざして～

日高村立日高中学校

実践概要：

育てたい資質・能力を「情報活用能力」「情報発信能力」と捉え、「授業改善」「学校図書館3機能の充実」を両輪に読解力の育成を進めた。また、「教科間連携」の仕組みを取り入れ、チーム会で研究を具体的に進めるなど、組織的に取り組む研究体制を構築した。そのほか、「学校特派員だより賞」「学校新聞づくりコンクール 金賞」「高知県青少年読書感想文コンクール高知県教育長賞」など数多くの賞を受賞、全国学力・学習状況調査の国語科の成績では全国平均をはるかに上回るなど成果が見られる。

キーワード： 授業改善（情報発信能力、情報発信能力の育成）、学校図書館3機能の充実、チーム会

1. 研究仮説

本指定事業を通して、読む活動（文章・資料を理解・評価しながら読む活動）・表す活動（文章・資料に基づいて自分の考えを表す活動）の指導過程を全教科等で工夫し、機会の充実（様々な情報を活用することで、読む活動・表す活動を充実させる）及び活動の場の設定についてスタンダード化を図りながら生徒がともに学び合う授業を展開すれば、読解力が向上するとともに本校の研究主題に迫ることができる。

2. 実践方法

読解力の向上に向けた対応策として、読解力を支える言語能力及び情報活用能力を育成する学習の充実といった授業改善が求められている。

また、図書館資料及び新聞などを活用して生徒の言語能力及び情報活用能力を育成する「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学校図書館の「学習センター」・「読書センター」・「情報センター」の3機能の活用が求められている。本校の取組に当たっては、授業改善と学校図書館の活用を両輪に読解力の育成を進めた。

(1) 学校図書館の活性化

- ①生徒の想像力を培い、学習に対する興味・関心等呼び起こし、豊かな心や人間性、教養などを育む自由な読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能の充実を図る。
- ②生徒の自発的・自主的な学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能の充実を図る。
- ③生徒や教員の情報ニーズに対応したり、生徒の情報収集・選択・活用能力を育成する「情報センター」としての機能の充実を図る。

(2) 授業改善

- ①学校図書館計画を見直し、年間カリキュラムに図書館活用、情報活用の計画を明記し、計画を基にした授業実践及び検証を行い、ともに学び合う授業を推進する。

②「日高中学授業スタンダード」に基づいた図書館資料や新聞を活用したともに学び合う授業を確立する。

③教科等横断的な視点で教育課程を編成するとともに、チームで授業研究などを推進する。

(3) その他

- ①もへい認定テスト（日高村版リーディングスキルテスト）の実施・分析を行う。
- ②新聞記事を読み、感想・意見・記事を読んで考えたこと・記事を読んで提案・提言などを書く「新聞ショートコメント」を毎週実施する。
- ③情報発信能力を高め、より新聞に親しんでもらうため、平成30年度より高知新聞「学校特派員」や「声ひろば」への投稿をさせる。
- ④得た情報を取捨選択する力を付けることと情報を発信する力を付けることを目標に行う、「学校新聞づくりコンクール」に取り組む。
- ⑤「学校図書館を活用した『読み』を鍛える拠点校事業」の研究を進めていくために、概要や趣旨を教職員間で共通理解する目的の「もへい新聞」を発行する。
- ⑥全教職員で足並みをそろえて授業改善していくために、各チームの研究内容や研究授業の様子や研究協議での検討事項などを共有する目的の「研究だより」を発行する。

3. 実践内容

(1) 学校図書館の活性化

- ①「読書センター」としての機能の充実
 - ・年に1回選書会を行い、生徒の興味のある本を購入した。
 - ・本校の生徒の中には、朝読書などで本は開いているが読めていないのではないかと思います。そこで、「読みやすさ」を支援する手立てとしてリーディングトラッカー（タイポスコープ）を各教室と図書館に配置した。
 - ・生徒が本に親しむ機会を多く提供しようと、「きっとある キミの心に ひびく本」を活用し1・2年生に向けて3年生が本のプレゼンテーションをする活動を行った。

・生徒や先生たちのおすすめの本や図書館で人気の本など、本や図書館に関することを紹介した「図書だより」の発行を行った。

②「学習センター」としての機能の充実

・図書を活用した授業がスペース上難しいという課題を解決するために、図書館閲覧室から一番近い教室を整備し、図書館学習室として新設した。これにより、階段でつながっている上階の図書館パソコン室と合わせて、図書館の3機能の集約を行った。

・図書館学習室には、ICTを用いた授業が行えるようテレビやプロジェクター、教材提示装置の設置、広辞苑の配置、パソコンの設置を行った。

・図書に図書分類コード（NDC）以外に分類別のマークを付け、誰もが一目見て、探したい分類の本を探せるようにした。

③「情報センター」としての機能の充実

・教職員用ネットワークを活用して生徒の作品やテスト、各教科等の教材等を管理し、どの教員でも活用できるようにした。

(2) 授業改善

①各教科等での取組をより効果的なものにしていくために、カリキュラム・マネジメント表を作成し、情報活用能力と情報発信能力を育成するため、各学年の目標は発達段階に応じた内容に設定した。なお、この目標の設定に際しては、小中学校の学習指導要領国語科を参考に全教職員で話し合い決定した。また、学校図書館の活用についても明記するようにし、より意識した取組を行えるように工夫した。

②情報活用能力と情報発信能力を育成するための授業を全教科等で目指すために、高知県教育委員会が発行している「高知県授業づくりBasicガイドブック」を参考に日高中授業スタンダード（図1）を作成し、これまでに研究してきたインクルーシブ教育を基盤として、読解力の育成ができる授業に努めた。



図1. 日高中授業スタンダード

③各チームでの研究

ア 自分の考えを相手に分かりやすく根拠をもって「伝える力」を伸ばす授業づくり

＜主な取組と検証＞

○毎時間の授業で考えを伝える場面を設定する。（振り返りの場面でも可）

○伝える相手意識をもたせる。（相手は誰かを明らかにして発表等をさせる。）

○発表の仕方の工夫

（根拠や理由を必ず言わせる。ex. 私は○○だと思います。その理由（根拠）は・・・）

○生徒が根拠をもって話ができるように授業で先生がモデルを示す。

○話し方の手本となるような掲示物を作る。

⇒自分たちの取組を他の先生方にも伝える。また、各教科での工夫をみんなから集めてまとめる。違う教科で使えるものがあると思うので、実践をしてもらう。

イ 充実したペアやグループワークで学力向上

＜主な取組と検証＞

○ペアやグループでの話し合いを必要とする課題を適切な場面で設定する。（できるだけ毎時間取り入れる）

○ペアやグループを指示した時に素早くできることを確認する。（グループになったときに隙間を作らないように指導する）

○話し合いがどのように行われたか、個人の思考の変容、話し合った内容が見えるようにホワイトボードを活用する。（写真1）



写真1. ホワイトボードを活用した授業の様子
ウ 思考を促す授業づくり

＜主な取組と検証＞

○「活動」、「思考」を有意義なものとするために板書の工夫をする。

○考えたくなる課題を設定する。

・本時のねらいを達成するための課題

・生徒にとって考える必然性がある課題

・進んで考え、探究できる課題

・問いや気付きを引き出せる問題等の提示方法

（ICTの活用、実物の提示、演示、生活経験の活用等）

・単元・題材全体・本時の学習の見通しをもたせ、主体的な課題解決を促しているか

○身近な出来事からヒントを得るなど導入の工夫をする。

・具体物を提示し問題把握を促す。

- ・生活の中から学習問題を提示する。
- ・子どもの興味をそそる問題を提示する。
- ・既習の学習からのつながりを示し、問題を提示する。

○日常生活にフィードバックするような振り返りを研究する。

- ・これまでの学習との関連を意識させる。
- ・他教科等の学習との関連を意識させる。
- ・日常生活や社会の場面の中にある事象との関連を意識させる。
- ・「本時の学び」から、新たな疑問につなげる等、これからの学習と関連を意識させる。

(3) その他

①校内研修において、リーディングスキルテストの例題に取り組み、どのような問題が出題されているか把握したうえで、「もへい認定テスト（日高版リーディングスキルテスト）」の作成に協力した。テストの実施・分析を行い、生徒の不足しているスキルを補うための授業の手立てについて協議し、授業改善に生かしている。

②「思考力・判断力・表現力」を重視するとともに、自分一人の感想・意見の表明だけでなく、周囲の人の意見も聞いて、より深く読み取る機会を提供することをねらいとして「新聞ショートコメント」（写真2）を毎週実施。課題の新聞は各学年が輪番制で担当し、担当の教員が選んだ記事から何を読み取らせたいか、何を考えさせたいか考え課題を設定した。また、「新聞ショートコメント」はやりっぱなしではなく、みんなのコメントや解説を提示し、周囲の意見や考えにも触れることができるようにした。



写真2. 新聞
ショートコメント
とその掲示板

③平成30年度より多くの生徒が学校行事等の記事を書き、新聞に投稿している。初めは、教師が生徒に声をかけ新聞記事の執筆を依頼する形であったが、徐々にこの取組が広がっていき、記事を書きたいと立候補する生徒も増えた。新聞を読んでいる人に自分たちの思いを伝えるためにはどんな工夫が必要なのか、どのような言葉を使えばよいのかということを考えて記事が書けるようになってきた。また、新聞に掲載されることで達成感を感じることができ、自分の思いを多くの人に伝える喜びを感じている生徒が多くいる。新聞を読んだ保護者や地域の方からの反響も大きく、さらに生徒たちが自分の思いを表現する原動力となっている。

④言語能力の育成に、新聞づくりを活用した。新聞の記事は、「なぜ」という疑問が大切である。多くの「なぜ」を考え、取材や調査を基に根拠をもって分かりやすく伝えるという活動は、どの授業においても必要な活動の流れである。その流れに沿った新聞づくりは、言語能力、情報発信能力の育成に不可欠であると考え、各教科や総合的な学習の時間で学習したことを新聞にまとめる新聞づくりの取組を行い、校内から1作品を「学校新聞づくりコンクール」に応募した。

⑤学校図書館を活用する意味や読解力向上に向けての授業改善などの内容を掲載した「もへい新聞」（写真3）を発行した。「もへい新聞」は、公務系共有フォルダーを介して、日高村内の小学校、日高村教育委員会、日高村立図書館が自由に閲覧できるようになっているため、日高中学校の研究内容を小学校、委員会、図書館で共通理解することができた。



写真3. 日高村図書館に掲示されている
「もへい新聞」

⑥各チームの研究テーマと取組を掲載し、チームでの研究を全体へ広げる足がかりすることなどを目的に「研究だより」を発行した。円滑なチーム会の開催のための今後の予定を周知するものになっている。また、全教科で読解力（情報活用能力、情報発信能力）を伸ばすため、全国学力・学習状況調査の問題を分析し各教科の授業改善への呼びかけなども行った。

4. 成果と課題

読解力を「情報活用能力」「情報発信能力」と捉え、カリキュラム・マネジメントにより各学年の年間計画を作成し、言語能力の育成に努めてきた。また、授業改善と学校図書館の活用を両輪に読解力の育成を進めてきた。その中で、授業スタンダードや教育活動について「研究だより」や「もへい新聞」を研究推進部から発行し、積極的に情報発信することにより、研究の共通理解を図ってきた。（写真4）



写真4. 研究掲示板

また、研究体制を一新し、「教科間連携」として3チームに分かれ、それぞれの研究テーマを設定した。研究テーマを具体的に設定することにより、目指す授業を明確に示すことができた。チーム会を週1回もち、授業づくりや学校図書館の3機能の充実を図るための具体的な取組を話し合ってきた。生徒に必要な資質・能力を育成する学校を目標に、組織的に取り組む体制(図2)を構築し、学力の向上につなげる等、チーム学校の構築において成果を上げたことが評価され「第2期高知県教育振興計画推進奨励賞『チーム学校の構築』」を受賞した。

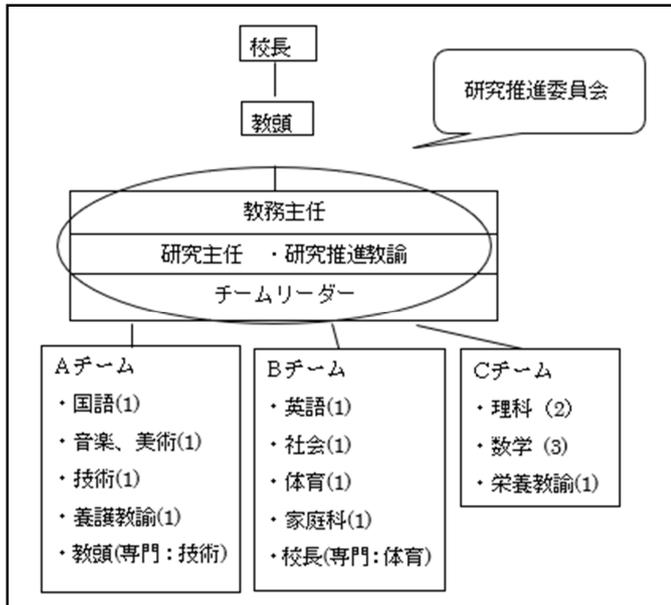


図2. 日高中学校研究体制

授業面においては、研究発表会で授業を参観していただいた方のアンケートからは、「図書館資料や新聞等を効果的に活用した言語活動及び情報活用能力を育成する授業が行われていましたか?」の問いに対して、「たくさんの関連図書を準備し、授業以外の時間にも言語能力などを育成する場が設定されている。」「資料や情報を基に個々が思考し表現しようとしていた。」「自分の考え、気持ちをグループ内で意見交換し、活字・新聞にしたものを共有し合っていた。」という意見を頂いた。

また、授業力チェックシート(教師用)の結果(図3)では、どの項目も本事業の指定を受け、取組を開始した当初から比べると改善が見られた。特に、教材研究の項目では、0.6ポイントの増加がみられ、今年度から取り組んでいるチームでの研究体制が、教材研究の向上につながっていると考えられる。表現する活動を重視した取組を行ってきた成果として、「教科の特質を生かした方法で自分の考えを表現できるよう、手立てを工夫している」が0.5ポイント増加、「ねらいを達するために、話し合いや交流の目的を明確にしている」が0.7ポイント増加した。また、チームで模擬授業、授業の流れの確認などを行ってきた結果、「指導技術」が0.4ポイント増加していた。特に「授業の流れや、児童生徒の思考の過程が分かる板書になっている」については、0.7ポイントの増加が見られ、チームで授業を見合ったり、板書について話し合ったりしてきた成果が出ている。

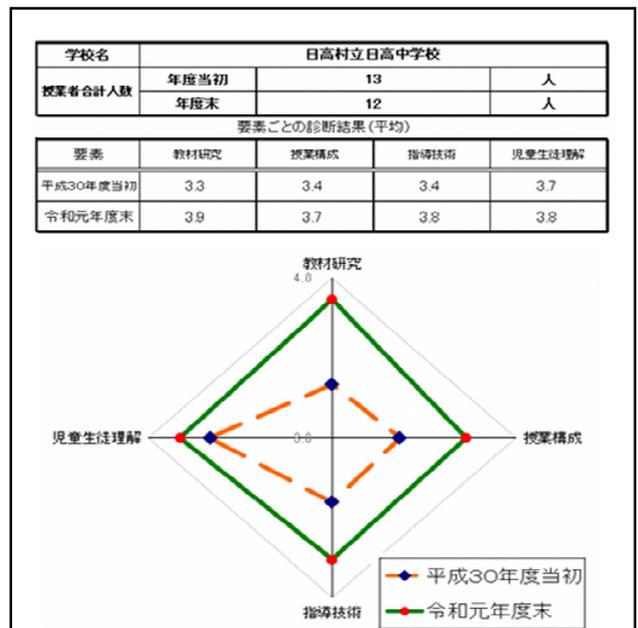


図3. 授業力チェックシート総括票(教師用)

その他にも、授業改善など様々な取組を行ってきた結果、平成30年度には「学校特派員だより賞」「学校新聞づくりコンクール 金賞」を、令和元年度には「学校新聞づくりコンクール 特選」、「第65回高知県青少年読書感想文コンクール 最優秀賞」1名をはじめ、優れた作品を数多く応募し高い評価を受けることができ、「高知県青少年読書感想文コンクール 高知県教育長賞」を受賞するなど数多くの賞を受賞することができた。

国語科は全国学力・学習状況調査で、全国平均との比較+10.2ポイント、1,2年生の高知県学力定着状況調査では、それぞれ県平均との比較+3.8ポイント、+7.9ポイントと全国、県を大きく上回っている。この国語力を基盤に学校教育活動全般において言語能力を鍛えていくことが大きな課題である。今後は、指定研究のための「『読み』を鍛える」ではなく、広く言語能力を鍛える視点に立って、主体的な学び手を育てる取組を続けて行かなければならない。

その他の課題として、研究の視点「情報活用能力の育成」「情報発信能力の育成」の具体化が各教科等で曖昧であった。各教科等の指導事項と関連した言語活動を設定し、これらの力を育成していきたい。「日高中授業のスタンダード」は、各教科等意識はしているものの、板書や探究的な問いの設定等の「授業プラン」が弱い部分もあり、課題である。また、学校図書館の3機能の充実を図りつつ、授業との連携を行い、学校図書館がどのように機能しているかも絶えず心配りをしていく必要がある。

この他にも改善すべき点は多々あるが、たくさんの情報が溢れている社会に生きる子どもたちが、その情報を精査し、それを根拠として自分の考えに自信をもって発信できる力を育てたい。そして、夢をもち、自分の好きなことや特技があることで自尊心を高め、この日高村に生まれてよかった、日高村のために何かしたいと思える生徒が一人でも多く増えるように、日高中学校教職員全員で今後も実践・研究に励んでいきたい。